

図4 | 玄関三方壁詳細図 [S=1:10]

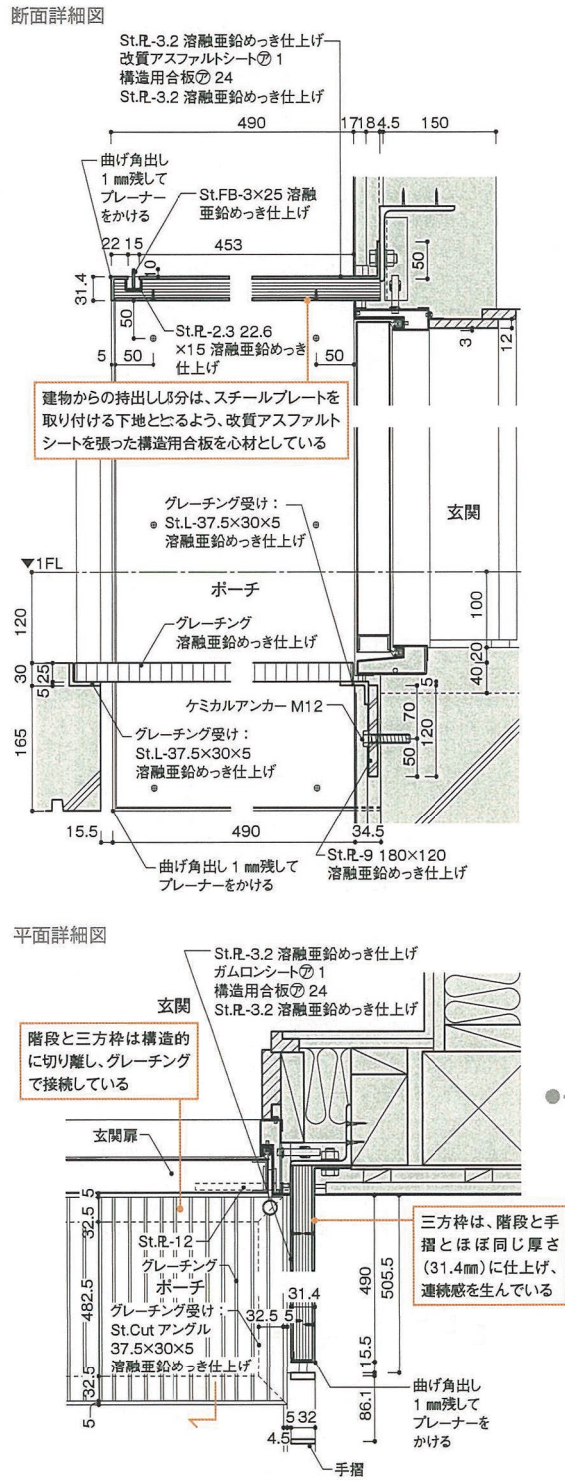
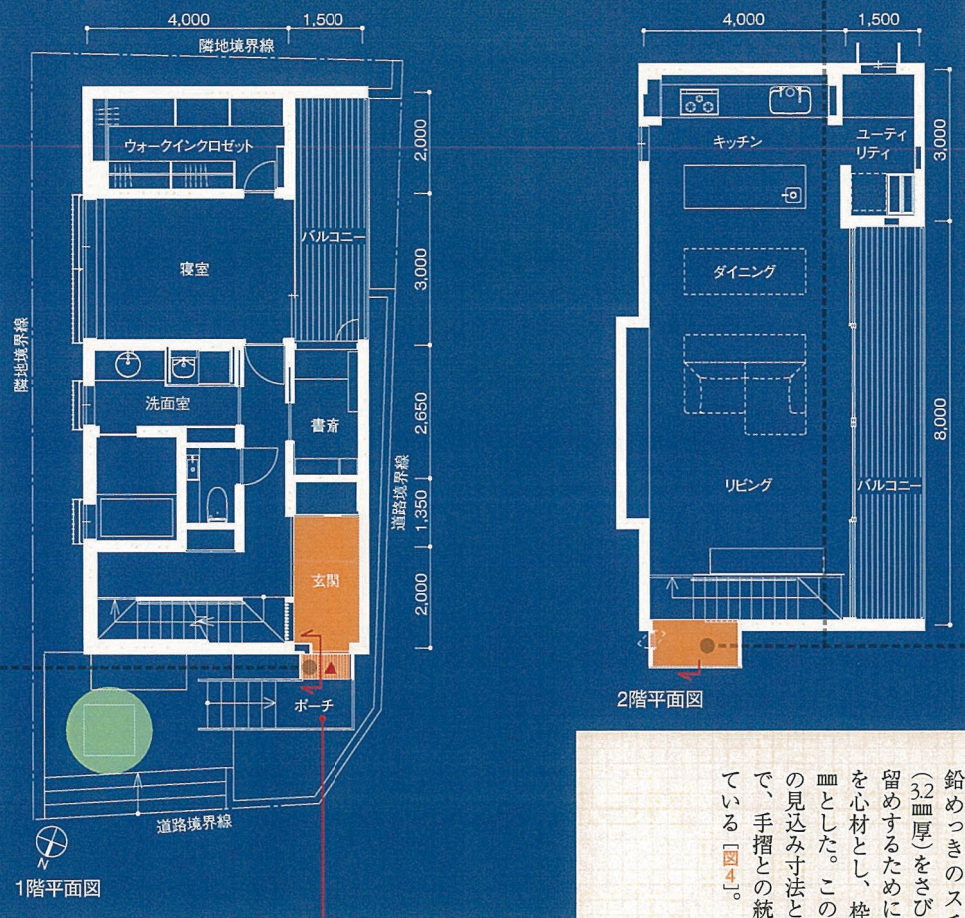


写真2 | 前面道路側から建物をみる。曲られた玄関と出窓は、形状は異なるものの、対に見える

図1 | 平面図 [S=1:150]



前面道路の交通量が比較的多いことから、半層分の階段は玄関に入る際の緩衝空間として、道路側からのプライバシーを確保している

図2 | 開口部平面詳細図 [S=1:5]

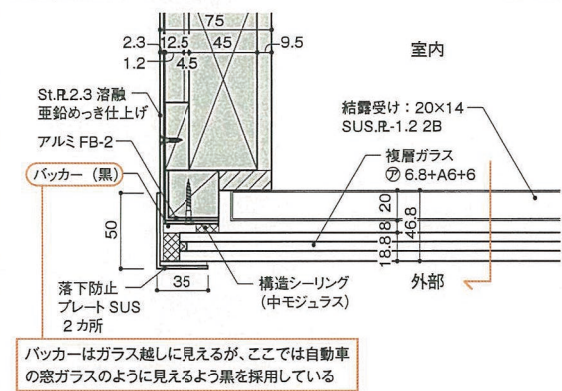
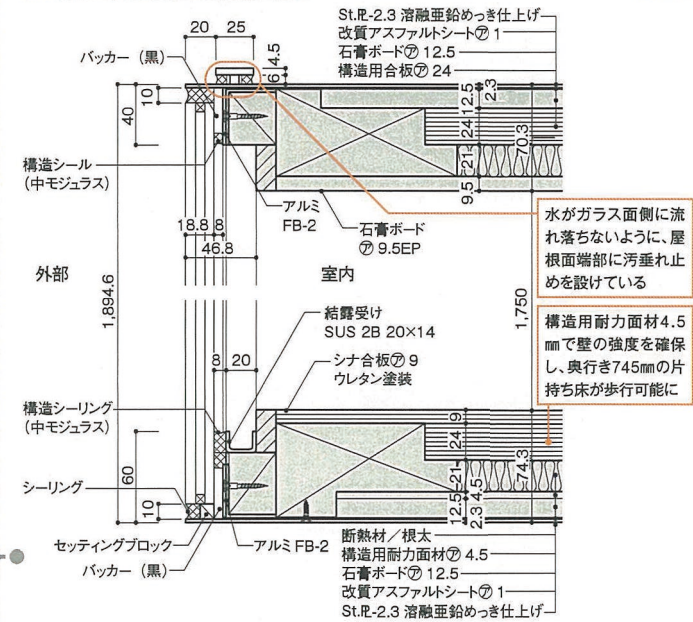


写真1 | 玄関廻り。溶融亜鉛めっきの素材感によって、玄関廻りと出窓、手摺のデザインがまとめられている

図3 | 開口部四方壁断面詳細図 [S=1:5]



出窓と玄関ポーチ枠のデザインを統一

玄関廻りの外観は、ともすると窓などの建具との統一感を欠き、浮いてしまいがちだ。この建物では、出窓と玄関ポーチ枠が対の要素に見えるよう、溶融亜鉛めっきのスチールプレートを通の材料としている。また建物本体から小さなキューブが突出したように、見せ方も統一「写真1」。出窓のガラスは、中モジュラス「2」の構造シーリングを用いた接着工法で取り付け、キューブの1つの面を見せている「図2・3」。そしてスチールプレートは、端部の納まりを美しくするためコーナーをすべて角出しし、溶融亜鉛めっき処理している「図4」。

玄関ポーチ枠は出窓と同じ扱いとし、立方体に見えるよう、底板を除く三方枠で構成。底板はグレーチングにして階段と玄関枠を構造的に切り離し、これらに軽くかけわたした。溶融亜鉛めっきのスチールプレート(32mm厚)をさびを気にせずビス留めするために、三方枠の合板を心材とし、枠の厚さを31.4mmとした。この厚さは階段手摺の見込み寸法とほぼ同じ(32mm)で、手摺との統一感も生まれている「図4」。

「矢板久明」

「八雲の家」設計：矢板建築設計研究所 | 写真1：小川重雄 写真2：平井広行  
\*モジュラスとは、ゴムなど弾性体に、一定のひずみを与えたときの応力のこと。中モジュラスは、2kgf/cm以上4kgf/cm未満